

(様式1) 実施報告書

1 補助事業者情報

(1) 事業者団体情報

| | |
|-----|-----------------|
| 団体名 | 一般財団法人静岡市国際交流協会 |
|-----|-----------------|

(2) 都道府県・政令指定都市との連携（申請者が地域国際化協会及び地域国際化協会に準ずる法人又は団体の場合のみ記載）

- ・「事業の中核メンバー」として、静岡市国際交流課職員が参画している。
- ・「総合調整会議」の構成員として、静岡市国際交流課及び学校教育課職員が参画している。
- ・一般財団法人静岡市国際交流協会の事業の大部分は、静岡市からの補助金による運営されており、本事業についても静岡市と協働して企画しているものである。

2 事業の概要

| | |
|----------------|---|
| 1. 事業の名称 | 静岡型「多文化共生のまち」実現のための地域日本語学習推進事業 |
| 2. 事業の期間 | 令和3年4月22日～令和4年3月10日（11ヶ月間） |
| 3. 事業実施前の現状と課題 | <p>静岡市には、令和2年12月末現在、全85カ国、10,958人の外国人が暮らしている。国籍別では、多い順に中国（19.5%）、ベトナム（15.1%）、フィリピン（12.2%）、在留資格別では、永住者（25.9%）、留学（19.3%）、技能実習2号ロ（10.4%）となっている。</p> <p>① 多様な在留資格を持つ外国人住民</p> <p>身分又は地位に基づく在留資格を持つ外国人住民の割合は、外国人住民数が最も多い浜松市が73%（令和2年4月現在）であるのに比べ、静岡市は36.8%と全体の半数に満たない。多様な在留資格や背景を持つ外国人が数年以内に入れ替わるのが、静岡市の特徴である。流動性が高く、定着度が低いことから、制度についての情報や日常生活のルールが定着しづらい。また、日本語教育の面においても、学習者の入れ替わりが激しく、新規転入者に基礎から繰り返し、日本語教育を実施する必要がある。</p> <p>② 外国人住民の散在化と居場所</p> <p>外国人住民は市内3区に広範囲に散在して居住している。外国人住民の実態や問題点が表面化しにくく、把握するのが困難である。特に、家族滞在の在留資格で来日し、学校や会社等に属さない場合は、日本に頼れるコミュニティが家庭以外に無く、孤立する傾向があることから、地域の日本語教室は彼らにとっての“居場所”や“セーフティーネット”としての機能も果たす貴重な役割を担っている。</p> <p>③ 外国人住民のニーズ</p> <p>静岡市が令和2年度に実施した「静岡市外国人住民アンケート2020」の調査結果によると、“日本語を学びたいが時間や費用等の理由で勉強できていない”の回答が53%と全体の半数を占めた。さらには新型コロナウイルス感染症の影響により、新規に市内に転入する外国人が少なく、また、日本語学習を希望していても、感染が拡大するにつれて、教室への参加を控える学習者も多かったため、日本語教室に継続して通う学習者は例年よりも少なかった。外国人住民のニーズ把握については、1年目から課題意識を持ち、取り組んでいるところではあるが、まだ状況の改善には結びついていないため、2年目も継続して取り組んでいく。外国人住民が学習意欲を持って、日本語学習を継続できるよう、彼らの多様な文化を尊重し、様々な希</p> |

望や置かれている状況及び能力に応じた日本語学習環境を整える必要がある。

④ 静岡市内の日本語教室と日本語学習支援希望者

日本語学習支援の担い手となることを希望する日本人は増加傾向にあり、令和2年度に日本語教育人材に対する育成として実施した「日本語ボランティア入門講座」には48人の参加があった。一方、市内には、日本語教室を運営するボランティア団体が8団体あるが、その多くの団体で活動に参加するボランティアの高齢化が進み、後継者育成が課題の一つとなっている。つまり、日本語学習支援を希望する日本人と地域の日本語教室との橋渡しが十分にできず、新たに活動を始めたくても、活動の場を獲得するに至っていない。彼らを確実に地域の日本語教室に繋げ、活動の場を提供すること、また地域の日本語教室が新たな人材を受け入れる体制を整えることが、市内の日本語教育水準の維持、更なる発展に繋がると考える。

4. 目的

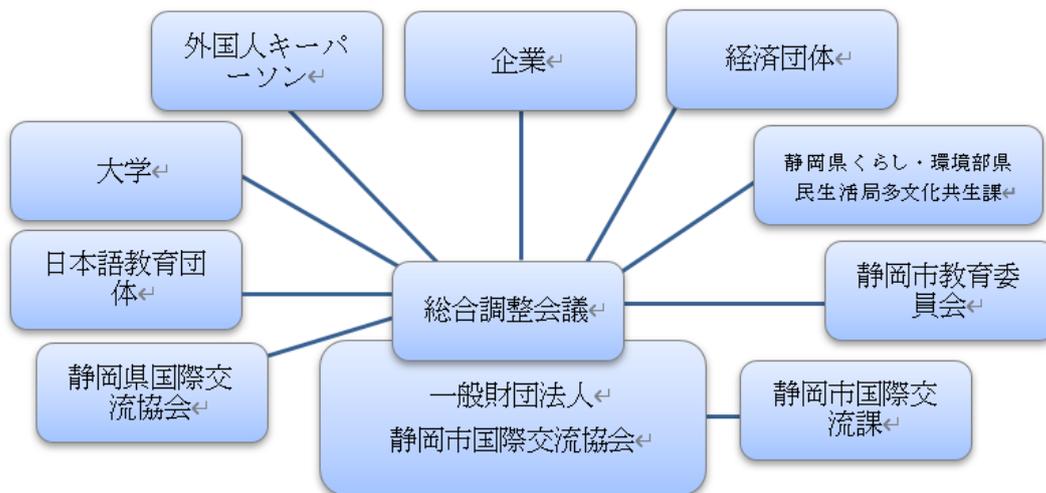
静岡市に住む外国人が、日本語を使って、健康かつ安全に自立した生活を送り、また地域や社会の中で孤立することなく、社会の一員として活躍できるように日本語学習環境を整備する。

上記の目標を達成するために、多種多様な日本語教育の実施、拡充、日本語教育を担う人材の育成、産学官の関係者、関係団体との連携強化や意見調整を行う。

3 事業の実施体制

(1) 実施体制 (図表等を活用して、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターを含めて記載してください。)

静岡市国際交流課と連携を図りながら、静岡県くらし・環境部県民生活局多文化共生課や、市内の日本語教育団体や大学、教育委員会等を構成員とする、総合調整会議を開催する。総合調整会議では、地域の多文化共生や日本語教育の現状、課題についての意見調整をしたり、進捗状況や成果を報告する場とする。



《事業の中核メンバー》

| | 氏名 | 所属 | 職名 | 役割 |
|---|-------|-----------|----------|---------|
| 1 | 磯部 正己 | 一般財団法人静岡市 | 専務理事兼事務局 | 事業全体の総括 |

| | | | | |
|---|--------|----------------------|-----------------|------------|
| | | 国際交流協会 | 長 | |
| 2 | 宮本 記世乃 | 一般財団法人静岡市 国際交流協会 | 主幹 | 運営補助、連絡調整 |
| 3 | 多々良 真衣 | 一般財団法人静岡市 国際交流協会 | 主事、総括コーディネーター | 企画、運営 |
| 4 | 増田 奈美 | 一般財団法人静岡市 国際交流協会 | 地域日本語教育コーディネーター | 運営、連絡調整 |
| 5 | 萩原 さほり | 静岡市国際交流課 | 課長 | 静岡市からの情報共有 |
| 6 | 岡本 恵 | 静岡市国際交流課多 文化共生推進係 | 課長補佐 | 静岡市からの情報共有 |
| 7 | 興津 昌利 | 静岡市国際交流課多 文化共生推進係 | 副主幹 | 静岡市からの情報共有 |

(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

1. 本事業を静岡市における地域日本語教育の総合的な取組と位置づけ、効果的な事業推進を図るため、総合調整会議及び各事業について、静岡市国際交流課と連携して実施する。
2. 「静岡県地域日本語教育推進方針」との整合性を図るため、静岡県や静岡県国際交流協会の協力を得る。
3. 日本語学習支援に取り組むボランティア団体の横連携を強化するとともに、幅広い在留資格の生活者に対応したオール静岡による日本語学習支援に対応するため、大学や経済団体の協力を得る。
4. 学校教育に係る児童・生徒対象の日本語教育推進事業との一貫性を図るため、静岡市教育委員会の協力を得る。

4 令和3年度の事業概要

| |
|---|
| 1. 令和3年度の実施目標 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・地域内での連携体制の検討 総合調整会議を通じて、地域の現状の把握、課題解決に向けた連携体制を検討する。 ・多様なニーズに対応した日本語学習支援の提供 静岡市に住む外国人が安心、安全かつ自立した生活を送ることができるよう、日本語学習支援の充実や、それに付随する取組を実施する。外国人住民の多種多様な希望や置かれている状況、能力に応じた日本語教育を受ける機会を最大限に確保できるよう、日本語学習支援メニューを提供し、外国人住民の日本語学習に対する満足度の向上を目指す。 ・地域日本語教育水準の向上と日本語教育人材の育成 令和2年度より育成している日本語教育人材（地域日本語教育コーディネーター及び候補者、日本語講師、ボランティア）を地域日本語教育団体に繋げ、地域全体の日本語教育の教育水準の維持向上を目指す。今年度は、日本語ボランティアスキルアップ研修を実施し、日本語講師やボランティアの能力、資質の向上を図る。また、日本語教育を通じて、活力ある共生社会の実現・諸外国との交流の促進や友好関係の維持発展に寄与する人材の育成に努める。 |

| 2. 実施内容 | | | | |
|-----------------|-------------|---|----------------|------------------------------------|
| 【必須項目】 | | | | |
| (取組1) 総合調整会議の設置 | | | | |
| ①構成員 | | | | |
| | 氏名 | 所属 | 職名 | 役割 |
| 1 | 高畑 幸 | 静岡県立大学 国際関係学部 一般財団法人静岡市国際交流協会 静岡市多文化共生協議会 | 教授 理事 委員 | 在住外国人問題や地域社会における多文化共生に関する専門的な見解、助言 |
| 2 | 案野 香子 | 静岡大学 国際連携推進機構 | 教授 | 日本語教育や多文化共生に関する専門的な見解、助言 |
| 3 | 古橋 哉子 | (公財) 静岡県国際交流協会 | 主幹 | 静岡県における外国人の住民に関する情報と見解 |
| 4 | 和田 路也 | 静岡県くらし・環境部県民生活局多文化共生課 | 多文化共生班長 | 静岡県からの情報共有 |
| 5 | 熊野 博隆 | 静岡商工会議所 産業振興課 | | 経済界、企業の立場からの情報と見解 |
| 6 | 興津 昌利 | 静岡市国際交流課多文化共生推進係 | 副主幹 | 静岡市からの情報共有 |
| 7 | 玉井 晶 | 静岡市教育委員会 学校教育課 | 指導主事 | 児童・生徒の日本語教育に関する情報と見解 |
| 8 | 鶴飼 俊江 | 清水日本語交流の会(地域日本語教育団体) | 会長 | 地域で活動する日本語教室の課題、意見 |
| 9 | 名倉 培之 | グローバルにほんご(地域日本語教育団体) | 代表 | 地域で活動する日本語教室の課題、意見 |
| 10 | マハラジャン・ディリプ | 会社員 ふじのくに留学生親善大使 | | 外国人住民からの情報、意見 |
| 11 | 田京 一也 | (株) ベルキャリアール | 常務取締役 | 外国人を雇用する企業からの課題、意見 |
| 12 | 川村 美智 | NPO 法人男女共同参画フ | 副代表理事 | 女性、児童生徒の日 |

| | | | | |
|----|--------|---------------------------------|-----------|-------------------|
| | | オーラムしずおか 一般財団法人静岡市国際 交流協会 | 評議員 | 本語教育に関する 情報と見解 |
| 13 | 磯部 正己 | 一般財団法人静岡市国際 交流協会 | 専務理事兼事務局長 | 会議運営 |
| 14 | 宮本 記世乃 | 一般財団法人静岡市国際 交流協会 | 主幹 | 会議運営、連絡調整 |
| 15 | 多々良 真衣 | 一般財団法人静岡市国際 交流協会 | 主事 | 会議運営、連絡調整 |

②実施結果

| | |
|---|--|
| 実施回数 | 4回 |
| 実施 スケジュール | 第一回：令和3年8月5日 14:00～15:30 第二回：令和3年9月29日 14:00～15:30 第三回：令和3年11月12日 14:00～15:30 第四回：令和3年12月23日 14:00～15:30 |
| 主な検討項目 | 第一回：令和2年度事業報告、令和3年度事業計画、静岡市多文化共生条例について、令和3年度総合調整会議の予定について 第二回：分科会について（案）、第一回 分科会 分科会1…「地域日本語教育の在り方について」 分科会2…「子どもの日本語教育について」 第三回：第二回 分科会 分科会1…「地域日本語教育の在り方について」 分科会2…「子どもの日本語教育について」 第四回：分科会の結果の共有、協議 |
| (取組2-1) 総括コーディネーターの配置 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 一般財団法人静岡市国際交流協会職員1名を総括コーディネーターとして、配置した。 総括コーディネーターは、文化庁「地域日本語教育コーディネーター講師育成研修」に参加、修了した。 総括コーディネーターは、地域の日本語教育の体制整備のため、以下の業務を行った。 <p>①総合調整会議の企画・運営、②地域日本語教育実施団体との連絡調整、教室訪問、実地調査、③地域日本語教育コーディネーターとの連絡調整、④日本語講師の取りまとめ、⑤日本語教育人材の養成やスキルアップのための研修の企画・運営、⑥日本教室の企画、⑦教材作成</p> | |
| (取組2-2) 地域日本語教育コーディネーターの配置にむけた取組 | |
| <p>地域日本語教育コーディネーターの配置【(○)】 選択した取組に○を記入してください。</p> <p>地域日本語教育コーディネーターの候補者の育成【(○)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般財団法人静岡市国際交流協会職員1名と、昨年度日本語講師だった1名を地域日本語教育コーディネーターとして配置した。 うち一名は、文化庁「地域日本語教育コーディネーター研修」に参加、修了した。 | |

| |
|---|
| <p>・地域日本語教育コーディネーターは以下の業務を行った。</p> <p>①地域日本語教育実施団体への教室訪問、②日本語講師との連絡調整、③日本語教室の運営、④日本語学習者との面談、ニーズの把握 ⑤日本語教育人材との連絡調整、⑥教材作成</p> <p>・日本語講師3名を対象に、令和4年度以降の地域日本語教育コーディネーター候補者として、OJTで育成したが、令和4年度に、即戦力として活動する人材までは至らなかった。継続して養成が必要である。</p> |
| (取組2-3) 調査・推進計画策定コーディネーターの配置 |
| |
| 【重点項目】 |
| (取組3) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組 |
| |
| (取組4) 市区町村への意識啓発のための取組 |
| |
| (取組5) 日本語教育人材に対する研修(研修受講者数(実人数):登録者20人) |
| <p>5-① 地域日本語教育コーディネーター研修</p> <p>地域日本語教育コーディネーター2名のうち、1名が文化庁「地域日本語教育コーディネーター研修」に参加、修了した。</p> <p>5-② その他の人材への研修</p> <p>1. 令和3年度 日本語ボランティアスキルアップ研修</p> <p>【実施期間】 第一回: 令和3年7月14日(水) 第二回: 令和3年8月22日(日) 第三回: 令和3年10月27日(水) 第四回: 令和3年12月22日(水) 第五回: 令和4年3月29日(火)(※事業実施期間外)</p> <p>【実施回数】 全4回(第五回は本事業実施期間外)</p> <p>【実施方法】 オンライン</p> <p>【講師】 東京にほんごネット 有田 玲子氏 他</p> <p>【参加者】 ことばと文化のサポーター、当協会会員等 計39名</p> <p>【実施内容】</p> <p>第一回、第二回は、東京にほんごネット 有田 玲子氏を講師に迎え、学習者とのコミュニケーションで役立つ、「やさしい日本語」の講座や、学習者の発話を引き出す質問の仕方などを、グループワークを交えて学んだ。第三回はコロナ禍において、オンラインでの日本語教室の実施も必要になったため、オンラインでの日本語学習支援の方法、Zoomの使い方などを学んだ。第四回、第五回は、3名のグループに分かれ、日</p> |

本語教室の企画、当日の進行のため、活動案の作成や発表、実施後の振り返りを行った。

第一回：やさしい日本語でコミュニケーション

第二回：質問力を身につけて発信力を引き出そう

第三回：日本語教室におけるオンラインツールの効果的な使い方

第四回：第三期日本語教室活動案の発表

第五回：振り返り

2. やさしい日本語講座・ワークショップ 《追加実施》

【実施日時】 令和3年11月28日（日）10:00～15:30

【実施場所】 青葉シンボルロード、ふしみや貸会議室

【講師】 東京にほんごネット 有田 玲子氏

【参加者】 計74人

（内訳）講義：18人

ワークショップ：44人

学習者：12人

【実施内容】 当協会主催の静岡わいわいワールドフェアにて、市民向けにやさしい日本語の紹介と講義、日本語教室の学習者とやさしい日本語で会話するワークショップを実施した。ワークショップには、生活日本語教室及び、にほんごひろばで学習する学習者が参加し、市民とやさしい日本語で会話した。あらかじめ用意した、テーマが書かれているカードを引き、そのテーマについて、お互いにやさしい日本語で話をしたり、質問をしたりした。学習者は、身に付けた日本語を使って精一杯伝え、日本人の市民はやさしい日本語で話すことに難しさを覚えながら、終始、両者ともに楽しそうに会話をしていた。途中、外国人の参加者も

（取組6）地域日本語教育の実施取り組んだものに○

【 】 都道府県・政令指定都市が主催する地域日本語教育

【○】 日本語教育実施機関団体等への地域日本語教育

| 実施箇所数 | 4カ所 | 受講者数 (実人数) | 87人 |
|-------|---|---------------|-----|
| 活動1 | 【名称】「既設」生活日本語教室 【目標】 自分自身を表現するテーマについて会話をする際の話のレパトリーを獲得し、自分のことを相手に伝える日本語力を身につける。 【実施回数】 44回（1回 1.5時間） 【受講者数】 38人（13人+10人+10人+5人×1カ所） 【実施場所】 静岡駅前会議室 LINK（静岡市葵区紺屋町） JR 静岡駅ビルパルシェ会議室（静岡市葵区黒金町） 静岡市役所3階 コミュニティ&ダイニングスペース 茶木魚（静岡市葵区追手町） ふしみや貸会議室（静岡市葵区呉服町） | | |

| | |
|-----|--|
| | <p>【受講者募集方法】当協会 Web サイト、Facebook、外国語情報誌での広報、チラシ等</p> <p>【内容】</p> <p>標準的なカリキュラム案等を参考に、令和2年度から作成、編集したオリジナルテキストを活用し、授業を行った。2回の授業で1つの学習項目を学習し、1回目の授業でマスターテキストを習得し、2回目の授業では、マスターテキストをもとに、相手に自分の話を伝えたり、相手の話を聞き、質問をし合うなど、クラスメイトと会話練習をした。各期2回程度は、復習を兼ねて、すごろく等のゲームを交えて会話をし、学習者同士の交流を図ったり、生活で役に立つ日本語や知識を得られるよう、体験型授業を行った。体験型授業では、病院での会話をロールプレイで学んだり、静岡県地震防災センターで行われた防災セミナーに参加し、日本の災害を知った。また、当協会主催の静岡わいわいワールドフェアでは、日本人市民とテーマに沿って、日本語で会話する機会を設け、会話を楽しんだ。</p> <p>【学習テーマ】(全期共通)</p> <p>①自己紹介、②わたしの家族・友達、③趣味・好きなもの、④毎日の生活、⑤週末にしたこと、⑥住んでいるところ、⑦わたしのしたいこと、⑧わたしの仕事・していること、⑨わたしのアドバイス、⑩うれしかったこと、⑪地域・イベントの情報</p> <p>【開始した月】 5月</p> <p>【講師】 4人 (うち日本語教師：4人)</p> <p>【関係機関との連携】</p> <p>【機関名】静岡市危機管理総室、葵区生活安心安全課</p> <p>【連携内容】防災セミナーの実施及び、防災セミナーの事前学習のための打ち合わせ</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：有</p> |
| 活動2 | <p>【名称】「既設」実践！生活日本語教室 (名称変更： にほんごひろば)</p> <p>【目標】生活で役立つ行為についてロールプレイを通して会話をしたり、実際に体験することで、実践的な日本語力を獲得する。</p> <p>【実施回数】 28回 (1回 2時間)</p> <p>【受講者数】 30人 (10人+9人+3人× 1か所)</p> <p>【実施場所】第一期 (5月～8月)：静岡駅前会議室 LINK (静岡市葵区紺屋町) 第二～三期 (9月～2月)：オンライン</p> <p>※新型コロナウイルス感染症の影響により、オンラインに切り替えて実施</p> <p>【受講者募集方法】当協会 Web サイト、Facebook、外国語情報誌での広報、チラシ等</p> <p>【内容】標準的なカリキュラム案等に基づくテーマで、日本語サポーターと一緒に話をした。自分の話を伝え、相手の話を聞くことで、自分の文化と日本語サポーターの話から、日本の文化を知った。また、日本語サポーターはこの活動を通して、文化理解を深めた。各期2回程度は、学習者同士の交流を図ったり、生活で役に立つ日本語や知識を得られるよう、薬剤師による薬局でのやり取りや薬の種類を学んだり、静岡県地震防災センターで行われた防災セミナーに参加し、日本の災害を知った。また、当協会主催の静岡わいわいワールドフェアでは、日本人市民とテーマに沿って、日本語で会話する機会を設け、会話を楽しんだ。</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>【学習テーマ】</p> <p>・第一期</p> <p>①インタビュー ②家族・ペット ③趣味・好きなもの ④家の近所 ⑤生まれてからこれまで ⑥毎日の生活 ⑦忙しい毎日 ⑧わたしのしたいこと ⑨アクティビティ「病気」 ⑩まとめ（復習） ⑪発表</p> <p>・第二期</p> <p>①アクティビティ「薬」 ②名前 ③ペット ④買い物 ⑤うれしかったこと ⑥トラブル体験 ⑦家事 ⑧得意な料理 ⑨アフターコロナ ⑩静岡わいわいワールドフェアに参加</p> <p>・第三期</p> <p>①出身地 ②スポーツ ③お正月（旧正月） ④仕事 ⑤防災 ⑥防災（見学） ⑦ルール</p> <p>【開始した月】 5 月</p> <p>【講師】 0 人</p> <p>【日本語サポーター】 登録者 27 人</p> <p>【連携内容】 防災セミナーの実施及び、防災セミナーの事前学習のための打ち合わせ</p> <p>標準的なカリキュラム案等の活用の有無：有</p> |
| 活動 3 | <p>【名称】「新設」読み書きクラス</p> <p>活動 4 自習前の自習クラスと統合して実施した。</p> |
| 活動 4 | <p>【名称】「既設」授業前の自習クラス</p> <p>【目標】 授業で使用する語彙やテキストを読んだり、文字を書いたりできるようになる。</p> <p>【実施回数】 33 回（一期 11 回×1 か所×3 期、1 回 30 分）</p> <p>【受講者見込数】 15 人（5 人×3 期×1 か所）</p> <p>【実施場所】</p> <p>静岡駅前会議室 LINK（静岡市葵区紺屋町）</p> <p>JR 静岡駅ビルパルシェ会議室（静岡市葵区黒金町）</p> <p>静岡市役所 3 階 コミュニティ&ダイニングスペース 茶木魚（静岡市葵区追手町）</p> <p>ふしみや貸会議室（静岡市葵区呉服町）</p> <p>【受講者募集方法】 当協会 Web サイト、Facebook、外国語情報誌での広報、チラシ等</p> <p>【内容】 授業の予習や前回の授業の復習を個別に行った。この時間に普段抱えている生活の悩みや心配事を話す学習者もおり、生活相談の場も兼ねた。</p> <p>【開始した月】 5 月</p> <p>【講師】 4 人（日本語教師 4 人）</p> <p>【関係機関との連携】</p> <p>静岡市多文化共生総合相談センター</p> |

| | |
|---|---|
| | 標準的なカリキュラム案等の活用の有無：有 |
| 活動5 | 【名称】企業内日本語教室 未実施 |
| 活動6 | <p>【名称】「新設」にほんごクラブ（児童・生徒向け日本語教室）</p> <p>【目標】日本語を話す機会を増やし、友人や家族との会話で使用する自然な日本語や自分のことを相手に伝える日本語力を身につける。</p> <p>【実施回数】 5回（1回 2時間）</p> <p>【受講者数】 4人（4人×1か所）</p> <p>【実施場所】 JR静岡駅ビルパルシェ会議室（静岡市葵区黒金町）</p> <p>【受講者募集方法】 静岡市教育委員会への広報、当協会 Web サイト、Facebook、外国語情報誌での広報、チラシ等</p> <p>【内容】 初学者もしくは来日間もない児童・生徒を対象に対面で授業を行った。日本語を使ったゲームや絵本の読み聞かせ等を交え、生活の中で使う日本語を学んだ。毎回の授業でカルタを作成し、そのカルタで遊ぶことをとおして、文章を作る力、聞く力、読む力を養った。最終日には、静岡科学館る・く・るを訪問し、集団行動に慣れたり、自然な日本語を引き出し、仲間と話す機会を作った。</p> <p>【開始した月】 8 月</p> <p>【講師】 4 人（日本語教師4人）</p> <p>【関係機関との連携】 静岡市教育委員会、しずおか自主夜間教室</p> |
| その他の取組（取組7～14のうち、取り組んだものについて記載） | |
| （取組8）地域日本語教育の効果を高めるための取組 《追加実施》 | |
| <p>【名称】日本語学習者との面談、ニーズの把握</p> <p>【実施箇所数】4カ所</p> <p>【実施時間数】計22.6時間（一人20分×68人）</p> <p>【実施者】総括コーディネーター、地域日本語教育コーディネーター、日本語講師</p> <p>【実施対象者】日本語教室受講者 68人</p> <p>【具体的な実施内容】</p> <p>日本語教室における学習希望者に対して、教室開始時にレベルを把握するための面談、期の半ばでは、学習状況や日常生活で困っていること、日本語使用頻度等を把握するための面談を実施した。この結果をもとに学習者のニーズに沿って、授業内で取り扱う内容や対応に反映させた。</p> <p>【名称】日本語教室アンケート</p> <p>【実施対象者】日本語教室受講者 68人</p> <p>【実施者】総括コーディネーター、地域日本語教育コーディネーター</p> <p>【具体的な実施内容】</p> | |

当協会主催の日本語教室の参加者に対して、日本語教室に関するアンケート及び日本語学習に関する実態調査を行った。調査には、文化庁の「日本語教育に関する調査の共通利用項目」を参考にしたり、文化庁の「令和3年度体制づくり事業のアンケート」を活用した。(詳細は添付資料のとおり)

(取組9) 地域日本語教育に付随して行われる取組

【名称】外国人住民のための防災セミナー

【実施日時】令和4年2月20日(日) 13:00~16:00

【実施時間数】3時間

【実施場所】静岡県地震防災センター

【参加者】23人

【具体的な実施内容】

静岡県地震防災センターに訪問し、母国と日本の地震発生状況を確認したり、模型を見ながら、地震や津波の起きるメカニズムや、津波の速さ、地震が起こる仕組みを学んだり、マグニチュード9.0、震度7の地震を体験した。その後、静岡県地震防災アプリを使い、参加者が暮らしている地域の被害想定を調べたり、グループで絵を見て危険な場所がどこか話し合ったり、災害に備えて準備するものを確認した。なお、当日の様子を動画で撮影し、参加者のインタビューも交えた動画を作成した。この動画は今後、日本語教室の紹介に活用する。

【関係機関との連携】

【機関名】静岡市危機管理総室、葵区生活安心安全課

【連携内容】防災セミナーの実施及び、防災セミナーの事前学習のための打ち合わせ

(取組10) 日本語教育に関する広報活動

外国人住民にも情報が行き渡るよう、日本語教室の情報を多言語に翻訳し、紙媒体、当協会 Web サイト、当協会 Facebook を通じて広報を行った。日本語学習を希望する学習者に対しては、7カ国語(日本語、英語、中国語、タガログ語、スペイン語、ポルトガル語、ベトナム語)に翻訳した、「日本語教室リスト」を使って、日本語教室を紹介、マッチングを行った。

(取組11) ICT を活用した教育・支援

当初計画していた、オンライン日本語教室は需要に応じて対応できるよう、体制は整えていたが、希望者が最小催行人数に満たなかったため、実施しなかった。

しかし、令和3年夏以降、新型コロナウイルス感染症の感染が拡大したため、対面で行っていた、にほんごひろばをオンラインに切り替え、実施した。(詳細は(取組6)参照)

なお、今年度実施した、(取組5)日本語教育人材に対する研修や日本語講師業務会議は、全てオンラインで行った。

(取組 12) 教材作成

令和2年度より作成を始めたオリジナル教材は、実際の日本語教室での実践や試行を繰り返し、今年度、完成させることができた。ここに至るまで、日本語教室での学習者の様子や発話の量を分析したり、授業を行う日本語講師の意見を参考にしながら、編集と試行を重ねた。監修には、文化庁「つながる ひろがる にほんごでの暮らし」の制作メンバーでもある、東京にほんごネットの有田玲子氏に依頼し、教材のルール決め（漢字、句読点、文法の取り扱い等）から行った。日本語教室で実践しながらの作成であったため、編集に時間がかかり、当初の計画であった製本までは至らず、本事業の実施期間内では、データの制作まで完了させることができた。なお、製本は自主財源で今年度中に完了させた。来年度からの日本語教室では、この教材を使って授業を実施していきたい。

【名称】 はなそう にほんご しぞーかで

【特徴】 マスターテキストアプローチを採用し、静岡市の名所や地名を盛り込み、静岡市で生活する外国人住民が自分事として取り組めるよう工夫した。

【対象】 初学者

【Unit 数】 12 Unit (全 84 ページ)

Unit 1 : はじめまして。

Unit 2 : わたしの家族は、4人です。

Unit 3 : スポーツが好きです。

Unit 4 : 毎朝、6時に起きます。

Unit 5 : きのうち、買い物に行きました。

Unit 6 : 静岡市に住んでいます。

Unit 7 : 広い家に住みたいです。

Unit 8 : わたしは、今、元気です。

Unit 9 : レストランで働いています。

Unit 10 : 静岡おでんを食べてみてください。

Unit 11 : 友達にプレゼントをもらいました。

Unit 12 : 今週の日曜日、お祭りがあるそうです。

2-2. 市区町村の日本語教育の取組への支援

(取組 15) 市区町村を支援して実施する日本語教育

(取組 16) 取組 15 以外の日本語教育を行う団体を支援して実施する日本語教育

地域日本語教育団体への訪問・聞き取り調査 《追加実施》

【目的】 地域日本語教育団体の実状を知り、訪問を通じて、ボランティアとの顔の見える関係を作る

【実施日時】 令和3年12月～令和4年2月

【実施者】 総括コーディネーター、地域日本語教育コーディネーター

【実施回数】 3回

【訪問団体数】 3団体

【実施場所】 蒲原生涯学習交流館、辻生涯学習交流館、当協会本部

【内容】 市内で日本語教育を実施しているボランティア団体の活動の様子を見学し、そこで活動するボランティアや学習者を対象にインタビューをした。調査結果を、令和4年度の事業に反映させる。

3. 効果

(1) 令和3年度の実施目標に対する評価

①令和3年度の実施目標（年度当初に設定した目標を再掲）

・地域内での連携体制の検討

総合調整会議を通じて、地域の現状の把握、課題解決に向けた連携体制を検討する。

・多様なニーズに対応した日本語学習支援の提供

静岡市に住む外国人が安心、安全かつ自立した生活を送ることができるよう、日本語学習支援の充実や、それに付随する取組を実施する。外国人住民の多種多様な希望や置かれている状況、能力に応じた日本語教育を受ける機会を最大限に確保できるよう、日本語学習支援メニューを提供し、外国人住民の日本語学習に対する満足度の向上を目指す。

・地域日本語教育水準の向上と日本語教育人材の育成

令和2年度より育成している日本語教育人材（地域日本語教育コーディネーター及び候補者、日本語講師、ボランティア）を地域日本語教育団体に繋げ、地域全体の日本語教育の教育水準の維持向上を目指す。今年度は、日本語ボランティアスキルアップ研修を実施し、日本語講師やボランティアの能力、資質の向上を図る。また、日本語教育を通じて、活力ある共生社会の実現・諸外国との交流の促進や友好関係の維持発展に寄与する人材の育成に努める。

②達成状況

今年度、新型コロナウイルス感染症の感染拡大や新規に市内に居住する外国人の減少に伴い、事業規模の縮小や実施回数の減少など、影響はあったものの、どの事業も中止することなく、概ね予定通り実施することができた。特に、日本語教室は、年間を通じて、コロナ禍でも途切れなく実施した。コロナ禍において、日本語教室を継続して運営する体制を構築したことが最大の成果だと言える。外出自粛の要請により、人とのつながりの価値が再認識される昨今、孤立しがちな外国人住民が日本語教室に集い、人と会話し、人とつながっている安心感を得られる場をもたらすことができた。

・地域内での連携体制の検討

総合調整会議を4回実施し、うち2回は二つの分科会に分かれ、「地域日本語教育の在り方について」、「子どもの日本語教育について」検討した。より幅広い意見を求めるため、昨年度より2名総合調整会議委員を増員した。

また、担当課である静岡市国際交流課多文化共生推進係との連携を強化すべく、情報共有を密に行うよう

努め、総括コーディネーターが参加した、文化庁「地域日本語教育コーディネーター講師育成研修」のモニタリングにも参加を求めた。

・多様なニーズに対応した日本語学習支援の提供

学習者の多様なニーズに応えるため、ニーズ調査を行った。今年度は学習者との面談を多く実施し、その結果、計 84 名、年間 28 時間を面談の時間に充てた。面談で得た情報をもとに、授業内容に反映させたり、それぞれのニーズに合った学習方法の提案や資料を提供した。

・地域日本語教育水準の向上と日本語教育人材の育成

総括コーディネーター及び、地域日本語教育コーディネーターは文化庁「地域日本語教育コーディネーター講師育成研修」と「地域日本語教育コーディネーター研修」にそれぞれ参加し、修了した。他の地域で活動する総括コーディネーターや地域日本語教育コーディネーターの事例を参考にしたり、静岡市の状況を第三者から意見を得て、今後の参考となるアイデアや知識を得た。

また、令和 2 年度より養成している日本語講師及び日本語サポーターを対象に、日本語ボランティアスキルアップ研修（全 5 回）を実施した。特に令和 4 年 1 月からは、日本語サポーターが日本語教室の計画、当日の進行を行い、OJT で養成し 10 名が研修を修了した。日本語サポーターは日頃の日本語教室の活動の中で、学習者と会話をし、学習者の経験や文化、考え等を聞き、自身と比較することで、文化理解や多文化共生に対する意識を醸成することができた。

(2) 個別の取組に対する評価

① 定量評価

- ・総合調整会議：前年度（ 2 ）回 当年度（ 4 ）回
- ・総括コーディネーター配置数：前年度（ 1 ）人 当年度（ 1 ）人
- ・地域日本語教育コーディネーター配置数：前年度（ 1 ）人 当年度（ 2 ）人
- ・実施した日本語教育人材に対する研修：（ 5 ）回（ 1 箇所） 当年度（ 6 ）回（ 2 箇所）
- ・実施した日本語教室：前年度（ 36 ）回（ 3 箇所） 当年度（ 110 ）回（ 4 箇所）

①-2 実施計画書において設定した目標に対する定量評価

- ・令和 2 年度と比べて、総合調整会議の実施回数を 2 回から 4 回に増やし、地域日本語教育コーディネーターも 1 名増員するなど、基盤の強化をした。
- ・日本語教室は、令和 2 年度 36 回（ 3 か所）であったところ、今年度は約 3 倍の 110 回（ 4 か所）実施することができた。

② 定性評価

(i) 連携機関の広がりについて

- ・全体を通じて、静岡市国際交流課とは連絡を密に取り、実施状況を共有するなど、さらに連携協力体制を強化した。
- ・地域の外国人を雇用する企業 2 か所、外国人が訪れる店舗などを 12 箇所を訪問し、現状を聞き、必要な情報を提供した。それにより、当協会の日本語教室への参加や地域日本語教育機関への紹介、文化庁『つながるひろがるにほんごでの暮らし』を紹介するなど外国人住民を日本語教育に繋げることができた。

(ii) 新たな連携機関と連携した内容

- ・総合調整会議では、委員2名を増員し、市内一般企業とNPO法人との連携体制を作った
- ・防災セミナーでは、静岡市危機管理総室、葵区生活安心安全課と連携して実施し、より実践的な内容を授業に取り入れることができた。また、連携した市の担当課や会場の職員に対して、市内にいる外国人住民の存在や状況を理解してもらうことができた。
- ・外国人従業員を雇用している市内の一般企業2社を訪問、聞き取り調査、日本語教室の紹介を行った
- ・地域日本語教育団体を訪問し、活動の見学と聞き取り調査を行った
- ・地域にある外国人住民がよく訪れる店舗や飲食店に、日本語教室のチラシを置き、広報した
- ・静岡市教育委員会を通じて、児童・生徒向け日本語教室の広報、紹介をした

(iii) どのような体制を構築できたか

- ・地域日本語教育コーディネーターを一名増員し、体制を強化した。
- ・今年度は、総合調整会議での分科会の設置により、より具体的で現場に即した話し合いができた。また、昨年度オンラインで実施した総合調整会議を、今年度は対面で実施したことで委員同士の意見交換がより活発に行われ、関係構築にも繋がった。
- ・日本語ボランティアスキルアップ研修及び、日本語教室でのOJTにより、日本語講師及び日本語サポーターの知識、経験を積み、より質の高い日本語教室の実施を助けた。
- ・地域日本語教育実施団体に、総括コーディネーター、地域日本語教育コーディネーター、日本語講師が訪問し、実際の日本語教室を見学した。活動の様子を見たり、そこで活動するボランティアと話をしたことで、地域の実状の把握とボランティアとの関係づくりに努めた。ここで得た情報やニーズをもとに次年度の計画を立てることができた。また、顔の見える関係ができたことで、日本語学習に関する情報の発信や広報がしやすくなった。

(iv) 事業実施に当たっての周辺自治体や域内の関係者等へ周知・広報及び事業成果の地域への発信について

- ・総合調整会議にて、本事業の事業報告、実施計画の説明をした。なお、今後の市政に活かしてもらうべく、全4回の総合調整会議終了後、協議結果を、静岡市国際交流課へ報告した。
- ・静岡市国際交流課への理解、現状の把握を促すため、総括コーディネーターが参加した、「地域日本語教育コーディネーター講師育成研修」でのモニタリングの機会を活用し、担当者にモニタリングへの出席を依頼した。その結果、普段、当協会が取り組んでいる日本語教育に関する事業やそこでの課題等を共有することができた。

4. 課題と今後の展望

(1) 課題と困難な状況への対応方法

- ・人材の質の確保、定着

令和2年度、当協会を含む、市内の日本語教室で活動することを期待して養成した日本語教育人材は、新型コロナウイルスの影響や自身の都合等もあり、継続して活動する方が少なかった。そこで、令和3年度は、人数確保に重きを置くのではなく、一人ひとりの質の向上に重点を置き、令和3年度開始当初、所

属していた 23 名を対象に日本語ボランティアスキルアップ研修を行った。研修の後半では、3 名ずつのグループを作り、グループで日本語教室での活動の準備、当日の進行を任せ、ボランティアの自主性を育んだ。

- ・外国人住民への状況把握、情報提供

外国人住民が広範囲に点在して居住しているため、外国人住民の実態や問題点の把握や 情報提供が困難だったが、国別のキーパーソンを介して情報提供を試みたり、外国人住民が良く訪れる市内の飲食店や食料品店等にチラシを置き広報に注力した。また、SNS 等でつながることで情報提供を図った。

- ・教材作成

令和 2 年度より作成を始めたオリジナル教材を、地域の状況、現場に即した内容を反映させるため、実際の日本語教室での実践や試行を繰り返した。日本語教室での学習者の様子や発話の量を分析したり、授業を行う日本語講師の意見を参考にしながら、作成、編集作業を同時に行うのは非常に難しかった。結果として、日本語教室の目的や授業の流れなども再考することができた。

(2) 今後の展望

- ・日本語教育人材に対する研修

With コロナ時代においても、日本語ボランティアと学習者が日本語で対話し交流できる機会のさらなる拡大を目指し、引き続き日本語ボランティアの養成を行う。また、今年度作成したオリジナル教材を使った初期日本語教育の担い手たる日本語講師の発掘、育成を行う。地域日本語教育団体との連携を促進させるため、地域の日本語教室で活動するボランティアを対象にしたセミナーや意見交換会の機会を作り、情報共有を図る。

- ・外国人住民への状況把握、情報提供

今年度実施した、ニーズ調査の結果、コロナ禍において、益々、外国人住民に情報提供することの大切さを強く認識した。ひき続き、外国人コミュニティへのアプローチや、キーパーソンとの連携を取り、外国人住民のニーズの把握と日本語教育を含めた、生活に役立つ情報の提供を行っていきたい。

- ・日本語教育に関する広報活動

必要な情報が十分に外国人住民に行き渡っていない、地域日本語教育団体との連携が十分に図れていないという課題に対応するため、地域の『日本語教育ポータルサイト (仮)』を構築する。外国人住民向けの情報としては、日本語学習希望者が自ら、日本語教室を検索できる機能や、日本語学習に役立つ他の Web サイト、文化庁の「つながるひろがる にほんごでのくらし」等の教材を紹介、また地域の情報等を発信する。地域の日本語教室や活動するボランティアに対しては文化庁から発出される日本語教育に関する情報共有やセミナー、資料の紹介等を行う。また、日本語講座のチラシ等は、多言語翻訳し、一般財団法人静岡市国際交流協会の Web サイトや SNS で広報し、認知度を高める。

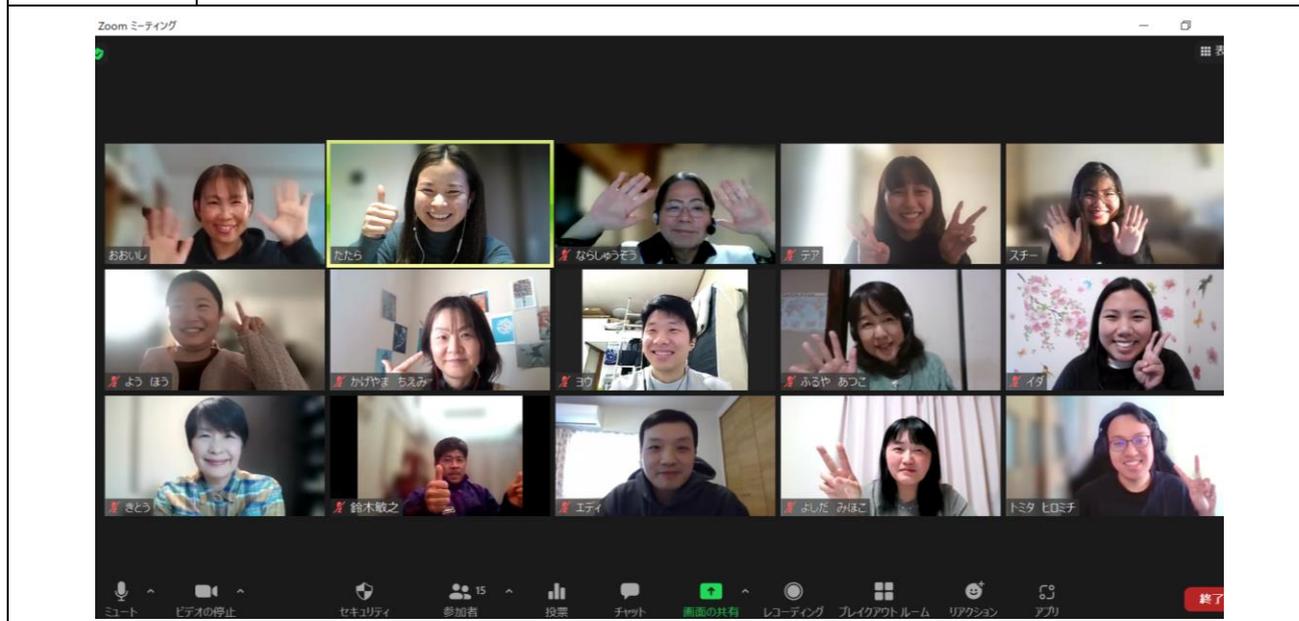
【参考写真一覧】

貴団体の特徴的な取組について、4点まで、写真を御提出ください。

※著作権、肖像権に配慮し、事前に掲載許可が得られたものを御提出願います。

| 取組番号 | 写真名 |
|---|---------|
| 6-1 | 生活日本語教室 |
|  | |

| | |
|-----|--------------------------|
| 6-2 | 実践！生活日本語教室（名称変更：にほんごひろば） |
|-----|--------------------------|



5-2

やさしい日本語講座・ワークショップ



9-1

防災セミナーで地震体験をする参加者



【参考資料一覧】

| 取組番号 | 資料名 | NEWS 掲載 |
|------|--------------------------|---------|
| 5-2 | やさしい日本語講座・ワークショップ チラシ | ○ |
| 6-1 | 生活日本語教室チラシ | ○ |
| 6-1 | 生活日本語教室アンケート結果 | ○ |
| 12 | オリジナル教材『はなそう にほんご しぞーかで』 | ○ |